

長寿の秘訣は「くよくよしない」 船越の濱登キヨさんが100歳に

船越の濱登キヨさん（大正2年生まれ）は11月9日に満100歳の誕生日を迎えました。11月11日、佐藤町長が自宅を訪れ、お祝い金を手渡しました。東日本大震災の津波を回想して、それ以前に2つの大津波を経験したキヨさんは「3回目だし、何ともない」と話します。町長は「くよくよしないのが長生きの秘訣なんでしょうね」と感心することしきりでした。漁村で生まれ育ったキヨさん。「ただただ働いてきた」と人生を振り返り、今も身の回りのことはほとんど自分でこなしています。



ウィーン・フィルが献奏 御蔵山に流れる追悼の調べ

音楽の都オーストリア・ウィーンを代表するウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバー7人が11月13、14日、本町を訪れ、東日本大震災の犠牲者を悼む献奏や町民のためのコンサートを行いました。同管弦楽団とサントリーホールディングスが共同出資した「音楽復興基金」の事業の一環。13日の献奏は山田湾と町内を見渡す御蔵山の「鎮魂と希望の鐘」の前で、黙とうの後、モーツァルトが晩年に作曲した賛美歌「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の調べを弦楽器4台でしめやかに奏でました。

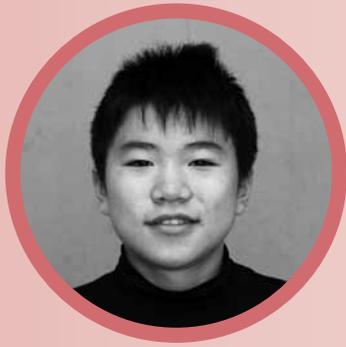
元教育長・木村悌郎さん 日蘭交流振り返る著書出版

元教育長の木村悌郎^{ていろう}さんが本町とオランダとの交流史を振り返る著書『時空を超えた絆 山田浦から始まるオランダ交流物語』を出版しました。このことを祝う集いが11月17日、山田町日蘭交流友の会の主催で開かれ、友好都市関係を結ぶザイスト市の財団法人ホフライスの会員や、木村さんにゆかりのある方々など約60人が出席しました。著書は震災時に同国の人々が寄せた物心両面の支援にも触れ、「人と人をつなぐ心の温かさ」に感謝を捧げています。



南小と山中でオリンピックデー 五輪出場者とスポーツ交流

日本オリンピック委員会の被災地支援「オリンピックデー・フェスタ」が11月15日、山田南小と山田中で開かれ、歴代の五輪出場者が児童・生徒とスポーツを通して触れ合いました。永田睦子^{むつこ}さん（バスケットボール）、宮崎義仁^{よしひと}さん（卓球）、上野雅恵^{まさえ}さん（柔道）、杉本美香^{みか}さん（同）が、山田南小で手つなぎ鬼ごっこ、山田中でスポーツ教室をするなどして交流。3大会で卓球男子の監督を務めた宮崎さんに手ほどきを受けた山田中の河村龍星^{りゅうせい}くん（2年）は「今日の指導を忘れずに練習に励みたい」と話しました。



町のわだい

— 今月の題字 熊谷 あきひろ 壮紘くん (山田南小6年)



町小中学校音楽発表会の様子

第44回町小中音楽発表会を開催 子どもらの元気な歌声響く

11月7日、町中央公民館において、第44回山田町小中音楽発表会が行われました。同発表会には、町内の小学校9校、中学校2校が参加。初めに全体で「もみじ」を合唱しました。各校の発表ではそれぞれが工夫を凝らし、手拍子を入れたり合奏をしたりと日ごろの練習の成果をいかんなく発揮。会場では、子どもたちの一生懸命な歌声に思わず涙する人の姿もありました。発表後は、大槌町教育委員会の箱山智美指導主事が良かった点、改善点などをきめ細やかに講評。発表を終えた児童・生徒らは、達成感に満ちた表情にあふれていました。



岩手県沿岸ホルスタイン共進会 織笠・福士さんの乳牛が優勝

本町と宮古市・岩泉町・田野畑村の酪農家が参加する乳牛の品評会、第49回「岩手県沿岸ホルスタイン共進会」が10月に岩泉町で開かれ、本町・織笠の福士慎治さんの「SFファーム タカラ ナンシー デストライ」が約50頭の中で総合優勝のグランドチャンピオンに輝きました。福士さんは9部門あるうち、出産を経験した3歳の部門と2頭1組の部門に出品していずれも1位になり、3歳の牛が全部門の優勝牛の中で最も美しく品位があると認められました。福士さんは「牧草や飼料に気を遣って育てた甲斐があった」と喜んでます。

